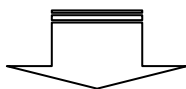


☆賀茂地域の青年農業士等と賀茂振興局長との懇談会
7月23日（木）開催

＜主な意見、アイデア＞

- ・ 賀茂地域における地産地消ができていない。伊豆ブランドとして、地元の旅館で使ってもらうシステムが必要である。
- ・ 消費者側の意識…大手ホテルはコストを重視し、無理に地産地消を図ろうとしない。一般消費者（特に年金生活者）も、ものを安く買おうとすることをまず考える。
- ・ 供給者側の事情…（安定供給していくための）農家の規模と能力の問題がある。観光客を相手にする場合は売上げに波があり安定しない。農家は経営基盤が安定してから、次のステップに進むことができる。
- ・ 賀茂地域は、その取組において独自の方向性を考えていく必要がある。
- ・ 6次産業化はその道筋、あるいはデザイン（全体像）を創り上げることが肝要。
- ・ 農家等がみんなで使うことのできる加工所があれば良い。
- ・ 農地の確保に関係して、農地の貸借に係る行政の関与や、公共事業で発生する残土の活用等を考えてほしい。
- ・ 農家にとって、有害鳥獣による農作物への被害は喫緊の課題、まさに生活に関わる問題であり、その解決を強く求めたい。



- ・ 官民・民民の連携部会などで検討を行う。
- ・ 地方創生の総合戦略に反映させていく。

- 官民・民民の連携 取組テーマ「農商工連携による観光資源の創出」
生産者と観光客を直接結びつける物産展を、道の駅等を活用しながら継続的に開催し、「農商工連携」による地域産業の活性化につなげていく。

☆第2回地方創生に関する意見交換会

7月28日(火)開催

テーマ 賀茂地域広域連携会議 官民・民民の連携 取組

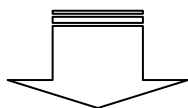
「農商工連携による観光資源の創出(道の駅の活用)」、
「伊豆半島全域連携による海岸清掃」の実施に向けて

<賀茂振興局からの説明・提案等>

- ・連携によるイベント開催に当たっては、伊豆全域が関わっていることを明示していく(「美しい伊豆」をタイトルに入れる)。
- ・農商工連携では、伊豆半島北部も巻き込み、全域でリレー開催することにより情報発信力が増す。
- ・道の駅の情報発信ツール等も活用し、管内だけでなく管外への情報発信を図る。アナログ(チラシ)よりデジタル(スマホ)が効果的。
- ・皆さんには労力と知恵を出してもらいたい。食の祭典については、農業・漁業関係者にも声を掛けて一緒にやっていきたい。
- ・海岸清掃についても、伊豆の広域において、あらゆる団体、多くの住民の参加の下に開催し、それを見える形で広く発信をしていきたい。

<参加者からの意見・情報提供等>

- ・地域で作ったモノを賀茂管内だけでなく、伊豆半島北部にも販路拡大したい。
- ・食のイベントを農業・漁業関係者と協働してして行うことは、今後意識していきたい。
- ・地元の「食」をテーマにした動画を作成し、イベントに合わせて流したらどうか。
- ・海岸清掃は下田青年会議所も実施しており、8月22日には弓ヶ浜において実施予定。その後一か月毎に実施を予定。
- ・7市6町の首長出演のポスターを作成したら面白いのでは。



民(地域団体等)が主体となったそれぞれのイベント活動を、
美しい伊豆創造センターのコーディネートのもと、伊豆全域において、
地域の総力戦で実施していくことで合意

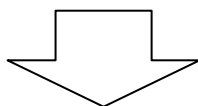
美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議

- ・喫緊の課題である人口減少対策に関し、「地方人口ビジョン」、「地方版総合戦略」を策定する(秋頃を目途)。
- ・産(産業)学(教育・学術)官(行政)金(金融)言(マスコミ)労(労働)の代表者で組織する「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議」を設置、そのうち、「地域会議」として、各地域の課題や特色を踏まえた施策の方向性等を明らかにするために、地域の意見を聴取する。

☆第1回伊豆半島地域会議 4月30日(木)開催 構成員36名出席

<主な意見>

- ・特に若い人達が地元に戻ってきてもらえるような、雇用の場の創出が必要(→移住・定住にも繋がる)。
- ・雇用のミスマッチを解消するため、情報提供に工夫が必要。特に若者向けになお一層、インターネットでの情報発信を充実すべき。
- ・まだあまり知られていない伊豆特有の希少な農水産物、地域資源等をブランド化して、流通させるべき。
- ・観光、産業、医療面において道路整備は喫緊の課題、伊豆縦貫道及びアクセス道路を早期に整備すべき。
- ・住民とともに観光客が安心して訪れることのできる防災対策とそのPRが必要
- ・「美しい伊豆創造センター」を中心に、伊豆が一つになる最後にして最大のチャンス。ダイナミックに施策を打っていくべき。



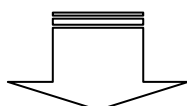
さらに若い世代の意見を聴くなどして、策定する計画や今後の取組に反映させていく。

☆管内各種団体若手会員等と賀茂振興局長との懇談会

6月10日(水)開催

＜主な意見、アイデア＞

- ・伊豆縦貫道などの政策の状況を知りたくて自主勉強会をやっている。
- ・若い人は危機感を持っている。
- ・町域を越えて、団体間の人口減少の合同勉強会を実施している。
- ・伊豆の魅力を発信したい。(伊豆の魅力発信委員会の設立)
- ・商工会伊豆地区連の動きなど、枠を越えて、同世代が集まっている。
- ・ただ、会員が少なく、本業の合間に色々集まっているがメンバーも固定になりがちで大変。(イベント疲れ)
- ・高校生等の若い世代は、自身の市町のことを知らない。人口が少ない今の状態が当たり前で育っており、人口減少問題への危機感が薄いと感ずることから、彼らに対する実態の説明が必要ではないか。また、巣立った先で伊豆の魅力を情報発信する宣伝マンとなってくれるよう育てることが必要。
- ・行政は、持ちかけても応えてくれない。人による差異が大きい。応えてくれる若い職員はいるが、結果は動いてくれない。



- ・官民・民民の連携部会などで検討を行う。
- ・地方創生の総合戦略に反映させていく。

○各団体において、それぞれが実施している活動を、市域町域を越えて結びつけ、より広域・多様化させる。

(例：食の祭典のリレー開催の実施など)

○伊豆の魅力の効果的な発信について、若い世代ひとりひとりを情報発信源・宣伝マンとして育成する。

(例：学生に対する伊豆の魅力発見講座の企画・実施等)

* 地域内の各種団体から推薦のあった若手会員等が出席 *